

## 産業技術総合研究所の概要紹介

独立行政法人産業技術総合研究所（産総研）は、日本の産業を支える環境・エネルギー、ライフサイエンス、情報通信・エレクトロニクス、ナノテクノロジー・材料・製造、計測・計量標準、地質という多様な6分野の研究を行う我が国最大級の公的研究機関です。旧通商産業省工業技術院の15研究所と計量教習所が統合・再編され平成13年（2001年）4月に設立されました。

産総研は、本部を東京およびつくばに置き、つくばセンターを除く全国8ヶ所（北海道、東北、臨海副都心、中部、関西、中国、四国、九州）にそれぞれ特徴ある研究を重点的に行う地域センターを配しています。総職員数は約3,000名。そのうち約2,300名の研究者が、組織・人材・制度を集積し産学官が結集して研究・技術評価・標準化を行うために産総研の「人」または産総研という「場」を活用する「オープンイノベーションハブ」構想のもとに、産業界、大学、行政との有機的連携を行い、研究開発からイノベーションへと展開しています。

特に産総研が貢献すべき重要分野として世界最高水準にある我が国の環境・エネルギー技術をさらに発展させる「グリーン・イノベーションの推進」、質の高い医療サービスへのニーズに応え、少子高齢化社会・介護などの課題に対応する「ライフ・イノベーションの推進」、国の安全・安心を支える「知的基盤の整備・推進」、科学技術立国を掲げる我が国産業競争力の強化、明るい未来社会を切り拓く「先端的技術開発の推進」を研究推進戦略としています。

# 産総研

## 第3期研究戦略

日本最大級の公的研究機関

独立行政法人  
産業技術総合研究所

産総研は、2010年4月からスタートした第3期で、これまでの実績を更に発展させ、新成長戦略を踏まえた中期目標及び中期計画に従い、政府が実現を目指している「課題解決型国家」への貢献に向けて、「21世紀型課題の解決」「オープンイノベーションハブ機能の強化」を大きな柱に位置づけ、次の4つの研究推進戦略に重点的に取組んでいます。

### 6つの研究分野と注目技術の一例

Fields of Research Expertise and Highlighted Technologies



#### 「オープンイノベーションハブ機能の強化」

- 産学官が一体
- 研究開発や実用化 標準化等の 場を産総研が提供
- 産総研施設の外部利用
- 地域の中小企業等やアジア等との共同研究等の連携
- 若手研究者、中小企業の企業研究者等の人材育成

#### 「課題解決型国家」

政府が実現を目指す

#### 「21世紀型課題の解決」

- グリーン・イノベーションの推進
- スマート・ソーシャル・イノベーションの推進
- 先端的技術開発の推進
- 知的基盤の整備

### 地域のオープンイノベーションハブ

Regional Open Innovation Hubs

#### 北海道センター AIST Hakkaido

蓄電池の材料開発 再生医療支援技術の開発  
Material development of energy storage devices  
Technology development for regenerative medicine

#### 中国センター AIST Chugoku

木質系バイオマスエネルギーの技術開発  
Technology development for wood based biomass energy

#### 関西センター AIST Shikoku

バイオマーカーを用いた健康工学技術  
Biomedical engineering using biomarker

#### 沖縄センター AIST Kyushu

生産計測技術 水素エネルギーの技術開発  
Development of measurement technology for manufacturing, hydrogen energy technology

National Institute of  
Advanced Industrial Science  
and Technology  
**AIST**

